

基調講演：「いばらきの底力」

茨城県企画部 理事兼科学技術振興監 福地 伸 氏

企業立地を支える基盤整備（陸・海・空）

- 人口 296 万人（11 位）、可住地面積（4 位）、工場立地面積（1 位）、耕地面積割合（1 位）、住宅敷地（1 位）、道路実延長（2 位）、高齢者近住率（1 位）など
- 工場立地…全国からの注目度ナンバー1（県外企業の立地件数 1 位）
基盤整備：4 本の高速道路、2 つの重要港湾、茨城空港、つくばエクスプレス
- 陸・海・空の広域交通ネットワークの形成
 - ・ 陸…圏央道：2012 年度に東北道・関越道・東関道と直結
つくば～成田間が約 50 分に（約 40 分短縮）
北関東道：2012 年度に関越道と直結
宇都宮～常陸那珂港が約 1 時間に（約 1 時間短縮）
東関道：2016 年度に鉾田 IC 開通予定
水戸～成田が約 1 時間 15 分に（約 30 分短縮）
 - ・ 海…常陸那珂港：複数の外貿定期航路、内貿定期航路が開設
 - ・ 空…茨城空港：2010 年春開港予定
首都圏空港の位置づけ（成田とのトランジット化）
特徴～自衛隊との共用飛行場
整備事業費負担が少なく、維持管理費を国で負担
- 茨城県におけるエネルギー関連施設立地：次世代エネルギーパーク
東海村…原子力、常陸那珂…石炭火力、鹿島…石油火力、
ひたちなか・鹿島…バイオマス、古河…ゼロエミッションハウス（積水ハウス）他
- 自然災害が少ない（地震災害、噴火災害）
- 全国に先駆けた立地優遇策（法人税、不動産取得税、固定資産税等）導入

農業の姿

- 農業構造…農家戸数（2 位）、農業就業人口（1 位）、耕地面積（2 位）
- 農業生産…農業産出額（3 位）、米（5 位）、野菜（3 位）、畜産（5 位）、生産農業所得（2 位）
- 産出品目別…全国 1 位：鶏卵、メロン、レンコン、干しいも、みず菜等
（H18 年） 全国 2 位：コシヒカリ、かんしょ、レタス、ピーマン、梨、白菜等
全国 3 位：豚、ねぎ、スイートコーン、にら、かぼちゃ

科学技術の振興・イノベーション戦略

- 科学技術関連施設の集積…つくば、日立、東海、鹿島
- それぞれの課題
 - ・ つくば：新たなモノを生み出す・研究機関の相乗効果が求められる

- ・ 日立：日立製作所依存からの脱却の必要性
- ・ 東海：J-PARCの有効活用
- いばらきイノベーション戦略
 - ・ イノベーション推進体制の確立、コーディネート機能の充実
 - ・ 公設試の機能強化、地域間連携（茨大、筑波大）
 - ・ 人材育成（企業OB活用、国際科学オリンピックに向けた学生の育成）
 - ・ プロジェクト領域…①量子ビーム関連、②再資源化・温暖化対策関連、
③健康・福祉関連、④農業関連
 - ・ J-PARC：県設置の2本のビームライン（材料構造解析、生命物質解析）
 - ・ PJ例①高性能コンパクト中性子利用システムの開発による中性子産業創成
②いばらきシステム（レアメタル回収）

いばらき産学官連携拠点のビジョン

- 産学官連携活動のプラットフォームとして「いばらき産学官連携ネットワーク」を整備
- 重点分野：産業を支えるプラットフォームとしての「ナノテクノロジー」
研究ポテンシャルの一元的な情報発信が必要
- 国際競争力と人材求心力を兼ね備えた産業創出を促進
- 茨城産学官連携ネットワーク推進協議会（会長：江崎玲於奈氏）
産業界：日立製作所・住友化学他、大学・独法研究機関、自治体
新産業分野の「世界標準化」を実現させる

いばらきイノベーション・エコシステム

- ナノテクノロジー世界拠点の形成を目指す
- 3本柱…ナノテク・ナノエレクトロニクス（産総研、物材機構、筑波大）
ナノテク人材育成（筑波大、茨城大、独法等公的研究機関）
ナノテク技術応用（いばらき産学官連携機構）

命あつての物種～安心・安全のために

- 共同利用型次世代放射線治療計画システム
次世代の統合的がん治療研究…県内に散在している施設・人材を連携
- 強度変調次世代型加速器中性子捕捉療法
- 産総研・糖鎖医工学研究センター
- 地域ケアシステム（介護制度）

Q & A**A : 福地氏のコメント**

- **Q.** 多様なインフラ整備が行われてきたが、県土づくりのゴールについてのイメージはどのように持っているか？
- **A.** 個人的には、全ては「安心・安全」のために繋がることと思っている。茨城県のインフラは、多様性が持ち味であるが、これらを上手く連携し、情報発信する仕組みを如何につくっていくかということがポイントである。

- **意見** グローバル産学官連携拠点が目指したものは、全体をまとめる横軸連携による世界展開がポイントであった。産業を見える化すること、産業が研究成果を活用していくことが重要。
- **A.** つくばの産業としては研究開発型産業が大事。今後はそれらを育てていくことに県として取り組みたい。

- **Q.** IMEC (ベルギー)、グルノーブル (フランス) 等とつくばとの違いは、国の研究機関に対する企業資金導入の状況である。企業ニーズを取り込むために、地方自治体がかかわり、地元企業と連携するべきではないか？
- **A.** 従来は産学官の官は「国」だったが、現在転換期にあり、「地方自治体」が主体となりつつあり、県としても今後は積極的に取り組んでいきたい。

- **Q.** 高エネ研や J-PARC は様々な利用が可能であるが、利用者側 (特に中小企業側) との間で利用可能分野や技術についての意識ギャップがあるように思うが？
- **A.** 確かに意識のギャップがあると思うが、医療面での利用期待は大きい。高エネ研や産総研にはそのシーズがある。

- **Q.** いばらきには底力があるが、県としては産業化やインキュベーションの機能が弱いと思うが、また、今後の対応をどう考えるか。茨城空港は来県者に対し何を売りモノにするのか？
- **A.** これまで県ではインフラ整備を優先して企業誘致を行ってきた。ある業種を呼び込むという戦略的な視点は不足している。静岡県は工業団地ごとに業種集積を形成しており、参考となる。今後、県ではつくば周辺でベンチャーが進出でき、育成可能な小割の団地が必要となるだろう。
- **A.** 茨城空港は、茨城県だけでなく北関東・首都圏を含めた広域で考える必要がある。県では科学技術をテーマとしたセールスポイントを考えており、つくばのサイエンスツアー等との組み合わせなども考えられる。

- **意見** 茨城空港は、例えば福島空港での韓国旅行者の温泉・ゴルフニーズの取り込み等と連携するなどして、入国から出国までを他県も含め広域的に連携していく必要がある。まずは、茨城県民が利用することが重要。
- **A.** 空港整備では、各社の就航検討の中で、近隣のショッピングセンターでの買い

物を求める声があり、これらニーズにも対応する必要があるだろう。

- **意見** グローバル産官学連携拠点への取組みについては、国の縦割り行政に対して県が主体性を発揮し民間を巻き込み横軸の連携をし、県自らが世界に発信していくことが求められる。
- **A.** 今回の取組みを通して、つくばを改めて考え直すきっかけとなった。国は、つくばでの成果を求めている。それがつくばの現状であり、つくばの成果を見えるよう、県自らが発信していくことが重要と認識している。

以 上